

2016年3月期 第2四半期決算説明資料

2015年11月18日

株式会社サンゲツ

証券コード:8130
(東証1部、名証1部)



目 次

■2016年3月期 第2四半期決算の状況

p. 3

・2016年3月期 第2四半期決算のPOINT	p. 4
・2016年3月期 第2四半期 外部環境	p. 5～6
・2016年3月期 第2四半期決算(連結)	p. 7
・営業利益(連結)の増減(対上期計画比)	p. 8
・セグメント別売上高推移	p. 9
・セグメント別営業利益推移	p. 10
・2016年3月期 上期の主な取り組みと課題 ーインテリア事業・エクステリア事業・照明事業	p. 11
・連結貸借対照表	p. 12
・連結キャッシュ・フローの状況	p. 13

■2016年3月期 通期見通しと進捗状況

p. 14

・2016年3月期 外部環境	p. 15
・2016年3月期 業績計画の進捗状況(連結)	p. 16

■中期経営計画(2014-2016)

Next Stage Plan G の進捗状況

p. 17

・中期経営計画 Next Stage Plan G 各施策の進捗状況	p. 18
①業務改革と情報システム・物流システム再構築	p. 19～20
②仕入先とのアライアンス強化	p. 21～22
③商品力の強化とブランディング再構築 ・拡張戦略・成長戦略の概略図	p. 23～26 p. 27
④関連子会社	p. 28
⑤資本政策 ・株主還元策の進捗 2014年11月～2015年9月実績と今後の予定 ・株主還元策の進捗 2015年度の実績 ・EPS(連結)の推移	p. 29 P. 30 p. 31 p. 32
⑥人事制度・給与制度改革を2015年7月より導入	p. 33
⑦物流拠点再整備	p. 34
⑧ショールーム政策	p. 35
・中期経営計画 Next Stage Plan G進捗	p. 36～37
・将来見通しに関する注意事項	p. 38

2016年3月期 第2四半期決算の状況



- 新設住宅着工戸数は本年3月以来7カ月連続前年比増も、当社主力商品壁装材の業界全体の当上半期出荷数量は前年比95.0%
- 非住宅の着工床面積は依然マイナス成長、業界全体の床材出荷数量は商品により^{まだら}斑模様
- 売上高若干の増も、上場以来過去最高の売上高を記録(642億5,600万円)
当期純利益は平成3年上期決算(32億9,000万円)以来の最高益(32億2,500万円)
- 売上総利益は昨年度の値上げの浸透、及び仕入れ価格低減努力により期初予想比・前年度比増益
- 販売費及び一般管理費は一時的費用を含め高水準
- 純利益は前年度比では特別損失の計上減により、大幅増
- 関連子会社では、サングリーンの売り上げ低迷、山田照明の在庫評価減により、営業利益前年度比減
- 下期の売上・総利益の前提予想は前年比4.7%増、また期初予想比販管費の増もあり、通期純利益予想は期初を維持

1) 関連市場の状況

(2015.11.02改訂)		新設住宅着工戸数 (国土交通省発表資料)		住宅リフォーム市場 (当社推計資料)	民間非居住建築物 着工床面積(倉庫・工場を除く) (国土交通省発表資料)	
		実績(戸)	前年比	前年比	実績(千㎡)	前年比
2013年	4-6月	241,349	11.8%	6.4%	8,668	27.2%
	7-9月	257,683	13.5%	9.8%	8,302	6.8%
	10-12月	271,279	12.9%	16.4%	8,291	8.1%
2014年	1-3月	216,943	3.4%	40.2%	7,687	▲ 2.0%
	4-6月	218,834	▲ 9.3%	▲ 6.0%	8,139	▲ 6.1%
	7-9月	222,533	▲ 13.6%	▲ 23.5%	7,440	▲ 10.4%
	10-12月	233,951	▲ 13.8%	▲ 14.6%	7,480	▲ 9.8%
2015年	1-3月	205,152	▲ 5.4%	▲ 28.1%	6,470	▲ 15.8%
	4-6月	235,455	7.6%	▲ 7.5%	7,558	▲ 7.1%
	7-9月	236,390	6.2%	9.5%	7,293	▲ 2.0%

1. 新築住宅	2015年度上期(4-9月度)の新設住宅着工戸数は前年同期比106.9%の471,845戸と好調に推移した。しかし着工と内装工事の時間差4ヶ月により、内装工事量は2014年12月頃～2015年5月頃までの着工戸数が影響。同期間の着工戸数は前年同期比95.4%となる。
2. リフォーム需要	昨年度上期(4-9月度)は前年同期比85.1%と大きく減少、本年度上期は7-9月度は前年比プラスに転じたが、未だ一昨年比85.3%に留まっている。
3. 非住宅	2015年度上期(4-9月度)の非住宅建築物着工床面積(倉庫・工場は除く)は、4-6月度は前年同期比7.1%マイナス、7-9月度は同2.0%マイナスとなり、昨年上期の91.8%からさらに減少。非住宅においては着工から内装工事まで1～2年後であり、昨年度の着工の大幅な落ち込みが今期の内装工事量のマイナスに影響を与えている。

2) 当該業界状況

		2014年度上期 数量比	2014年度下期 数量比	2015年度上期 数量比
壁装材		97.7%	90.6%	95.0%
床材	タフテッド カーペット	71.6%	68.3%	89.8% (4-8月)
	カーペット タイル	103.5%	95.0%	104.8% (4-8月)
	長尺フロア	103.1%	98.4%	95.6%
	フロアタイル	99.8%	99.0%	104.4%

2016年3月期 第2四半期決算(連結)



単位(百万円、%)

	2015年3月期 2Q実績	2016年3月期 2Q計画	2016年3月期 2Q実績	計画比		前年同期比	
				増減	%	増減	%
売上高	63,981	64,500	64,256	-244	-0.4%	275	0.4%
売上総利益	17,962	18,450	18,829	379	2.1%	867	4.8%
売上総利益率	28.1%	28.6%	29.3%	0.7%		1.2%	
販売費及び一般管理費	14,037	14,650	14,269	-381	-2.6%	232	1.7%
営業利益	3,924	3,800	4,559	759	20.0%	635	16.2%
営業利益率	6.1%	5.9%	7.1%	1.2%		1.0%	
営業外収益	316	180	231	51		-85	
営業外費用	22	30	28	-2		6	
経常利益	4,218	3,950	4,762	812	20.6%	544	12.9%
特別利益	0	0	12	12		12	
特別損失	880	50	53	3		-827	
税金等調整前 当期純利益	3,338	3,900	4,721	821	21.1%	1,383	41.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,156	2,500	3,225	725	29.0%	1,069	49.5%
EPS(円)※	28.3	34.2	44.7	10.5		16.4	

売上高は、エクステリア事業で減収するなど、微増にとどまるも、2015年3月期2Q後半からの販売価格は正に加え、今期6月からは原油価格安に伴うコストの見直しを行い、総利益は増益。

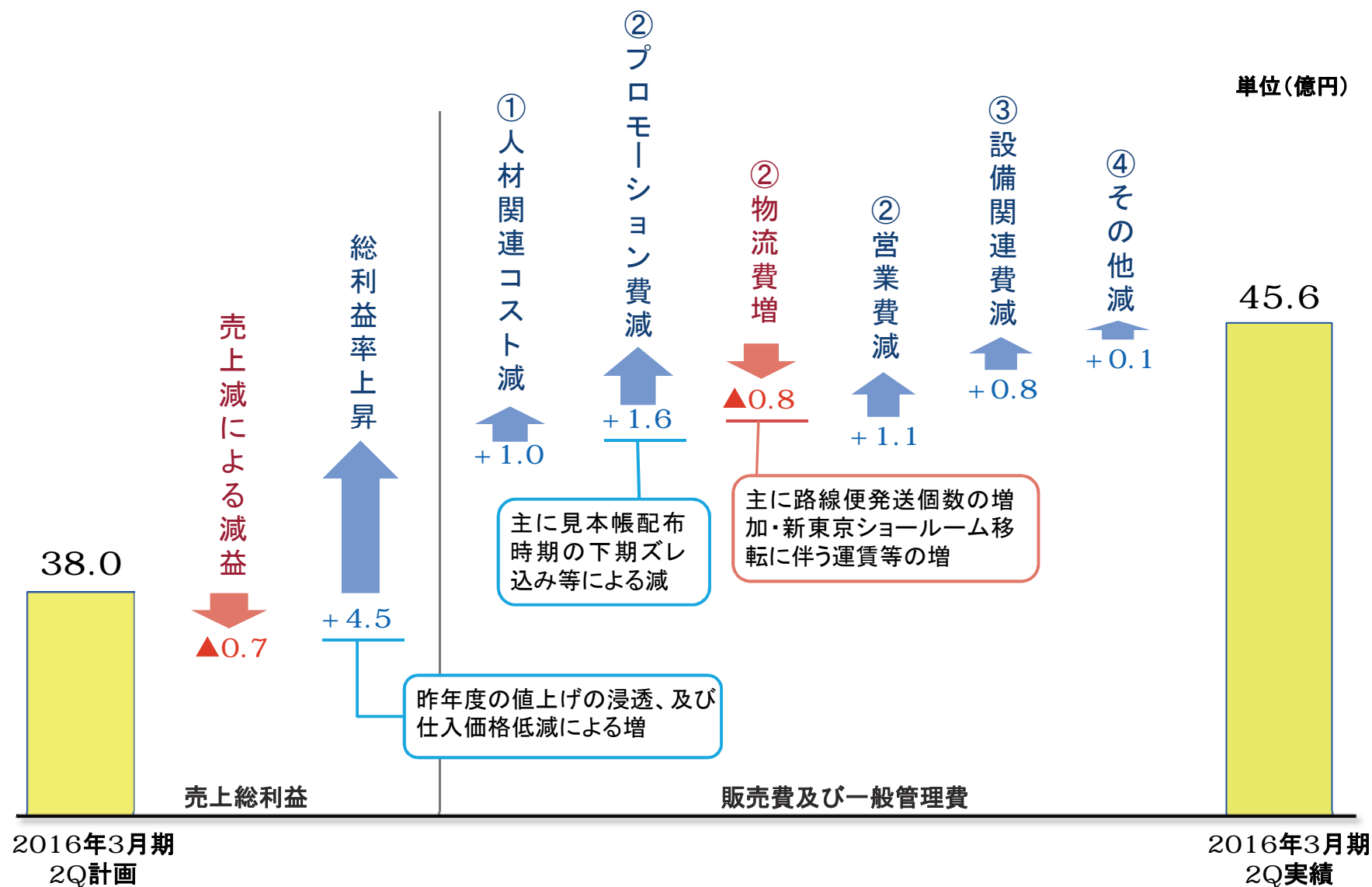
P.8に詳細掲載

2015年3月期の雪害に対する子会社保険金の受取で、営業外収益は減少。

2015年3月期の保有資産見直しによる減損等の解消により、特別損失は減少。

※2015年4月1日付で株式分割(1株を2株に分割)を行っており、EPSは分割後の株数ベースにて算定

営業利益(連結)の増減(対上期計画比)



セグメント別売上高推移

単位(百万円、%)

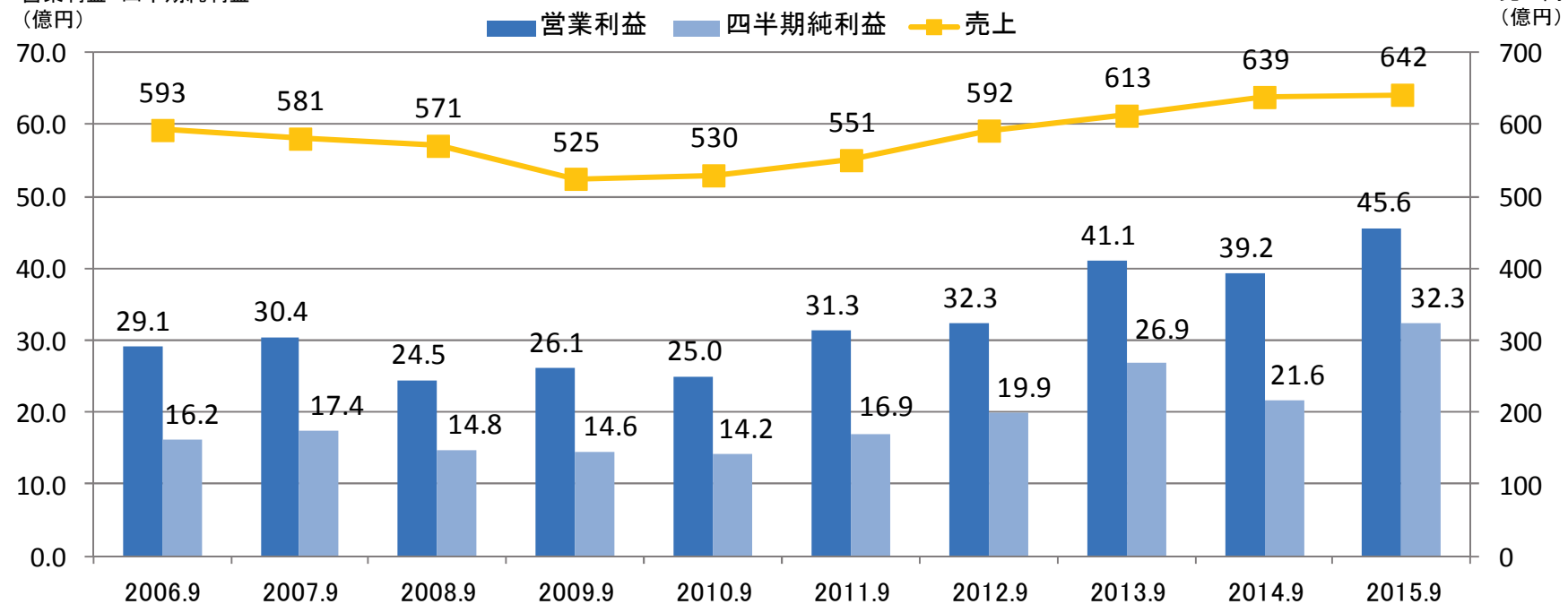
事業セグメント	2012年3月期2Q	2013年3月期2Q	2014年3月期2Q	2015年3月期2Q	2016年3月期2Q	構成比	対前年増減率
インテリア	47,583	50,714	52,701	54,633	55,119	85.8%	0.9%
壁装材	23,349	25,253	26,400	27,105	27,450	(49.8%)	1.3%
床材	15,950	16,810	17,590	18,311	19,137	(34.7%)	4.5%
カーテン	3,804	3,915	3,707	4,002	3,642	(6.6%)	-9.0%
その他	4,479	4,735	5,003	5,215	4,889	(8.9%)	-6.3%
インテリア総計	47,583	50,714	52,701	54,633	55,119	(100.0%)	0.9%
エクステリア	5,425	6,617	6,990	7,512	7,185	11.2%	-4.4%
照明器具	2,122	1,936	1,614	1,867	1,973	3.0%	5.7%
セグメント間取引調整	-3	-10	-5	-32	-22	—	—
連結売上高	55,127	59,257	61,301	63,981	64,256	100.0%	0.4%

セグメント別営業利益推移

単位(百万円、%)

	2012年3月期 2Q	2013年3月期 2Q	2014年3月期 2Q	2015年3月期 2Q	2016年3月期 2Q	構成比	対前年 増減率
インテリア	2,911	3,067	4,102	3,641	4,496	98.6%	23.5%
エクステリア	75	160	209	260	152	3.3%	-41.5%
照明器具	142	-2	-207	30	-85	-1.9%	—
セグメント間取引調整	0	-0	0	-8	-3	—	—
連結営業利益	3,130	3,225	4,105	3,924	4,559	100.0%	16.2%

営業利益 四半期純利益
(億円)



■ インテリア事業の状況

- ・数量不調の市場で価格重視営業。
- ・数量・シェア・売上高で苦戦(特にカーテン・壁紙)
- ・値上げ効果の継続・売上原価低減効果により総利益は増。
- ・非価格競争力(商品・ブランディング・営業体制)強化に課題。

■ エクステリア事業の状況

- ・市場全体の不調(エクステリア工業会 4～9月の出荷金額前年比97.0%)のなか、4～7月での売り上げ低迷が影響し、4～9月前年比売上95.6%。
- ・売上減による総利の減に加え、販売奨励金の減少により営業利益41.5%減。
- ・過去2社買収後、未着手であった人事制度の見直しや拠点再配置など、体制整備中。問屋業としての機能強化が課題。

■ 照明事業の状況

- ・社内体制整備(物流設備・ショールーム・在庫評価減)、社員の士気向上には一定の進展。
→前年比売上高105.7%、販管費110.3%。
- ・小規模照明会社としての機能・商品差別化に依然課題。
- ・売上高45億円での事業収益の安定化が当面の目標。

連結貸借対照表

単位(百万円)

区 分	期 別	2015年 3月31日	2015年 9月30日	増減
(資産の部)				
流動資産		99,613	95,768	▲ 3,845
現金及び預金		28,238	41,401	13,163
受取手形及び売掛金		44,927	40,788	▲ 4,139
有価証券		13,300	300	▲ 13,000
その他		13,146	13,278	132
固定資産		43,462	44,496	1,034
〈有形固定資産〉		28,579	29,905	1,326
建物及び構築物		8,345	8,427	82
土地		18,559	19,354	795
その他		1,674	2,123	449
〈無形固定資産〉		332	782	450
〈投資その他の資産〉		14,550	13,807	▲ 743
資 産 合 計		143,076	140,264	▲ 2,812

主に国債の償還による

期末需要期との比較による売上減少

主に新規物流拠点(中部ロジスティクスセンターⅡ(仮称))の土地取得による増加

主に新東京ショールーム開設に伴う什器購入、支社・本社の改修による増加

主に新基幹システムのライセンス料発生による増加

主に投資有価証券の時価会計による減少

単位(百万円)

区 分	期 別	2015年 3月31日	2015年 9月30日	増減
(負債の部)				
流動負債		18,967	17,775	▲ 1,192
支払手形及び買掛金		13,198	12,690	▲ 508
未払法人税等		1,280	1,428	148
その他		4,488	3,656	▲ 832
固定負債		5,350	5,139	▲ 211
負 債 合 計		24,317	22,914	▲ 1,403
(純資産の部)				
株主資本		115,067	113,935	▲ 1,132
その他の包括利益累計額		3,691	3,358	▲ 333
新株予約権		—	55	55
純 資 産 合 計		118,758	117,349	▲ 1,409
負 債 純 資 産 合 計		143,076	140,264	▲ 2,812

需要期の3月仕入との比較による9月仕入の減少

資本政策による自己株式の取得と消却による減少

連結キャッシュ・フローの状況

単位（百万円）

		2015年3月期 2Q	2016年3月期 2Q	前年同期差
	税金等調整前 四半期純利益	3,338	4,721	1,383
	減価償却費	559	630	71
	運転資本増減	1,653	3,037	1,384
	法人税等支払	-2,907	-1,223	1,684
	その他	948	-928	-1,876
	営業キャッシュ・フロー	3,591	6,236	2,645
	投資キャッシュ・フロー	1,433	8,849	7,416
	フリーキャッシュ・フロー	5,024	15,085	10,061
	財務キャッシュ・フロー	-1,441	-4,464	-3,023

主に季節変動による

【16.3期】 売上債権減少 4,139
棚卸資産増加 ▲593
仕入債務減少 ▲508

【15.3期】 売上債権減少 4,668
棚卸資産増加 ▲1,349
仕入債務減少 ▲1,666

2015年3月期減損損失による調整
15.3期 834

主に中部ロジスティクスセンターⅡ（仮称）の土地等、固定資産取得による支出が増加も、国債の償還等により収入増

16.3期 国債償還 13,000
固定資産取得 ▲1,909

15.3期 国債償還 4,000
固定資産取得 ▲941

昨年11月からの株主還元策に基づく、自己株式取得と、増配による支出増

15.3期6月支払の期末配当金14.3億円に対し、16.3期は6月支払の期末配当金16.4億円、4～9月の自己株式取得総額は27.1億円、合計43.3億円を支出。

2016年3月期 通期見通しと進捗状況



●外部環境予想

(2015.11.02改訂)		新設住宅着工戸数 (国土交通省発表資料)	住宅リフォーム市場 (当社推計資料)	民間非居住建築物 着工床面積(倉庫・工場を除く) (国土交通省発表資料)
		前年比	前年比	前年比
2014年	上期実績	(441,367戸) ▲11.6%	▲14.9%	▲8.2%
	下期実績	(439,103戸) ▲10.1%	▲20.8%	▲12.7%
	通期実績	(880,470戸) ▲10.8%	▲17.8%	▲10.4%
2015年	4-6月	(235,455戸) 7.6%	▲7.5%	▲7.1%
	7-9月	(236,390戸) 6.2%	9.5%	▲2.0%
	10-12月	(250,000戸) 6.8%	2.3%	5.8%
	1-3月	(207,000戸) 0.9%	1.6%	7.8%
	通期予想	(928,845戸) 5.5%	1.0%	0.7%

※当社推定値

2016年3月期 業績計画の進捗状況(連結)

単位(百万円、%)

2016年3月期					
	上期実績	上期計画	対上期計画 進捗率	通期計画	対通期計画 進捗率
売上高	64,256	64,500	99.6%	135,500	47.4%
売上総利益	18,829	18,450	102.1%	38,700	48.7%
販売費及び一般管理費	14,269	14,650	97.4%	30,450	46.9%
営業利益	4,559	3,800	120.0%	8,250	55.3%
経常利益	4,762	3,950	120.6%	8,550	55.7%
税金等調整前四半期 (当期)純利益	4,721	3,900	121.1%	8,450	55.9%
親会社株主に帰属 する四半期(当期)純 利益	3,225	2,500	129.0%	5,500	58.6%

中期経営計画(2014-2016) Next Stage Plan G の進捗状況



①	業務改革と情報システム・物流システム再構築
②	仕入先とのアライアンス強化
③	商品力の強化とブランディング再構築
④	関連子会社
⑤	資本政策
⑥	人事制度・給与制度改革
⑦	物流拠点再整備
⑧	ショールーム政策

①業務改革と情報システム・物流システム再構築

1. 取引支援・営業情報 管理システム

- ✓ 効率の良い営業
 - ✓ 効果的な営業
 - ✓ 強い営業
- 実現を目指し、



セールスフォース
2015年2月より運用開始

2. 次期基幹システム

- 業務見直し(BPR)
- 新基幹システム(SAP)導入
- 業務の社外委託(BPO)



アクセンチュアをベンダー
兼コンサルタントに起用し、
検討・実行スタート



2016年下期 稼働予定

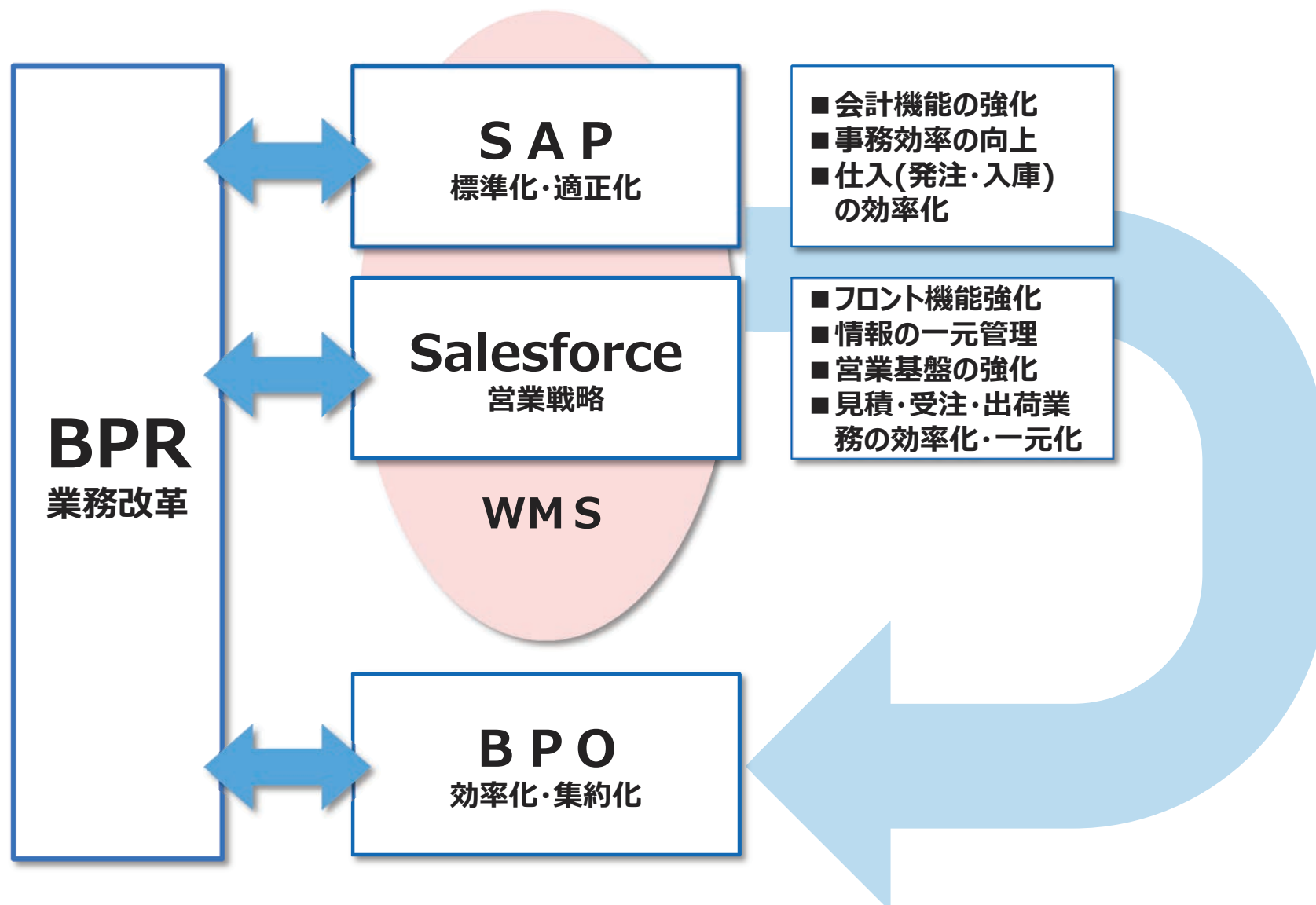
3. 支社管轄物流体制から 全社最適・全社管轄の 物流体制に

- SCM見直し
- 物流拠点見直し・再整備
- 物流設備・機器再構築
- WMS



外部コンサルタントの協
力を得て、見直し・構想
策定を実行中

①業務改革と情報システム・物流システム再構築



従来の仕入先分散政策の問題点

- 仕入先の状況変化
- 同業他社での仕入れ先集中の動き
- 見本帳切り替えによる商品改廃

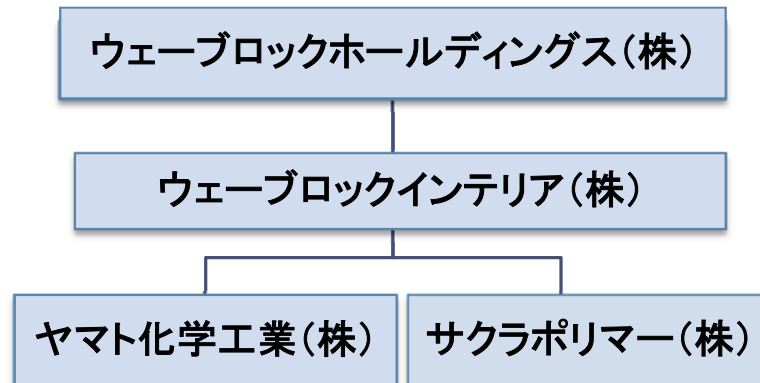


仕入政策の抜本的見直し

有力仕入先とのアライアンスの強化

ウェーブブロックホールディングス株式会社の
株式取得(10月9日発表)
持分比率22.2%取得の上、持分法適用会社に

ウェーブブロックホールディングス(株)
の子会社である、(株)ウェーブブロック
インテリアは、国内における塩ビ系壁
紙製造のリーディングカンパニーであ
ると同時に、当社の塩ビ系壁紙供給
の主力先の一つ

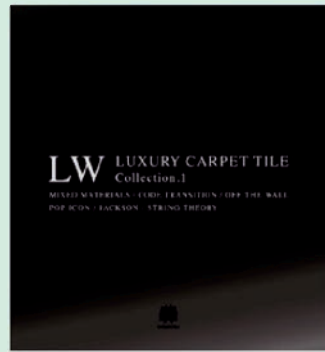


- 市場起点での商品企画・商品開発の徹底
- 事業部タテ割の弊害排除
- 市場・対象顧客別の見本帳開発の明確化

③商品力の強化とブランディング再構築

従来

【旧背表紙】



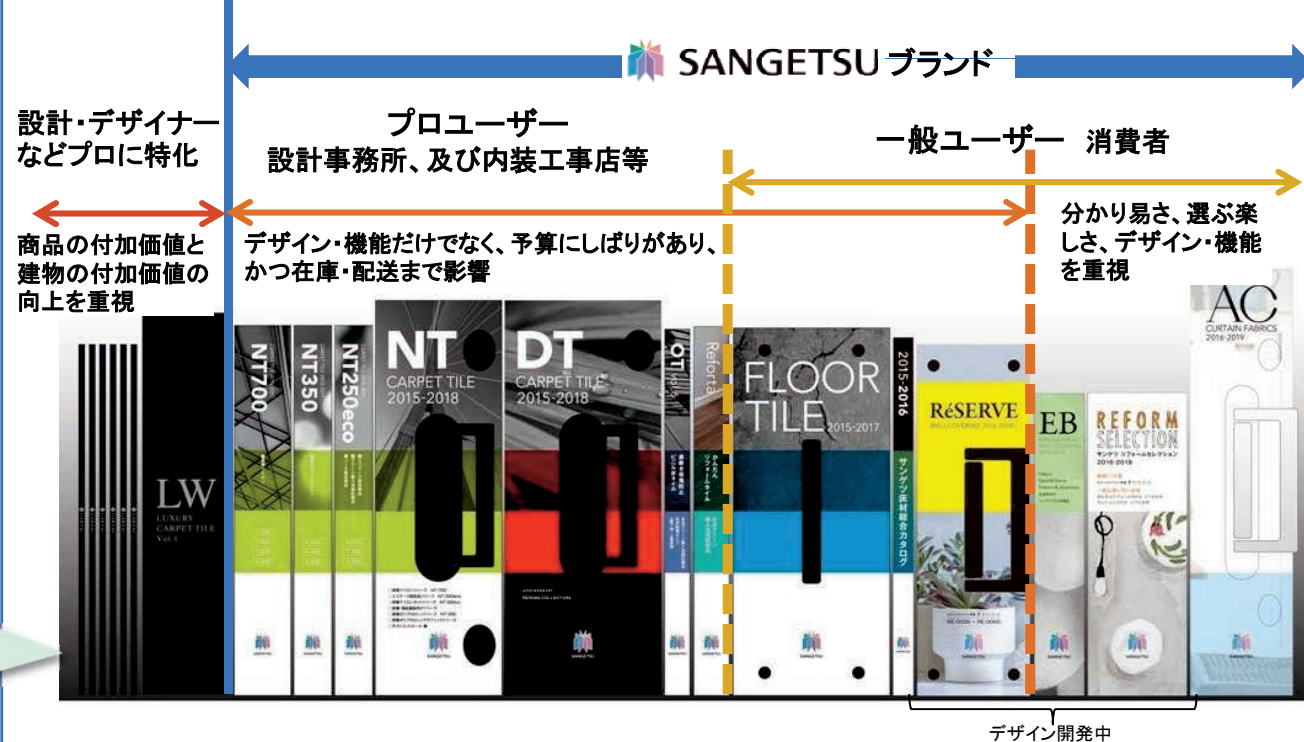
「LW」
プロユーザー向け
輸入カーペットタイル見本帳



「GARZAS(ガルザス)」
最大ヨコ1.5m×タテ3.2mの
大型のセラミック板

新しいブランディング戦略

【新背表紙】サンゲツブランドとしての統一感を持たせた見本帳デザイン



● 大型のセラミック板 「GARZAS」発売



ブランディング再構築

- ブランドステートメント
- ロゴマーク
- ブランドプロモーション方針



2016年4月
ブランドステートメント及びロゴマーク
対外発表

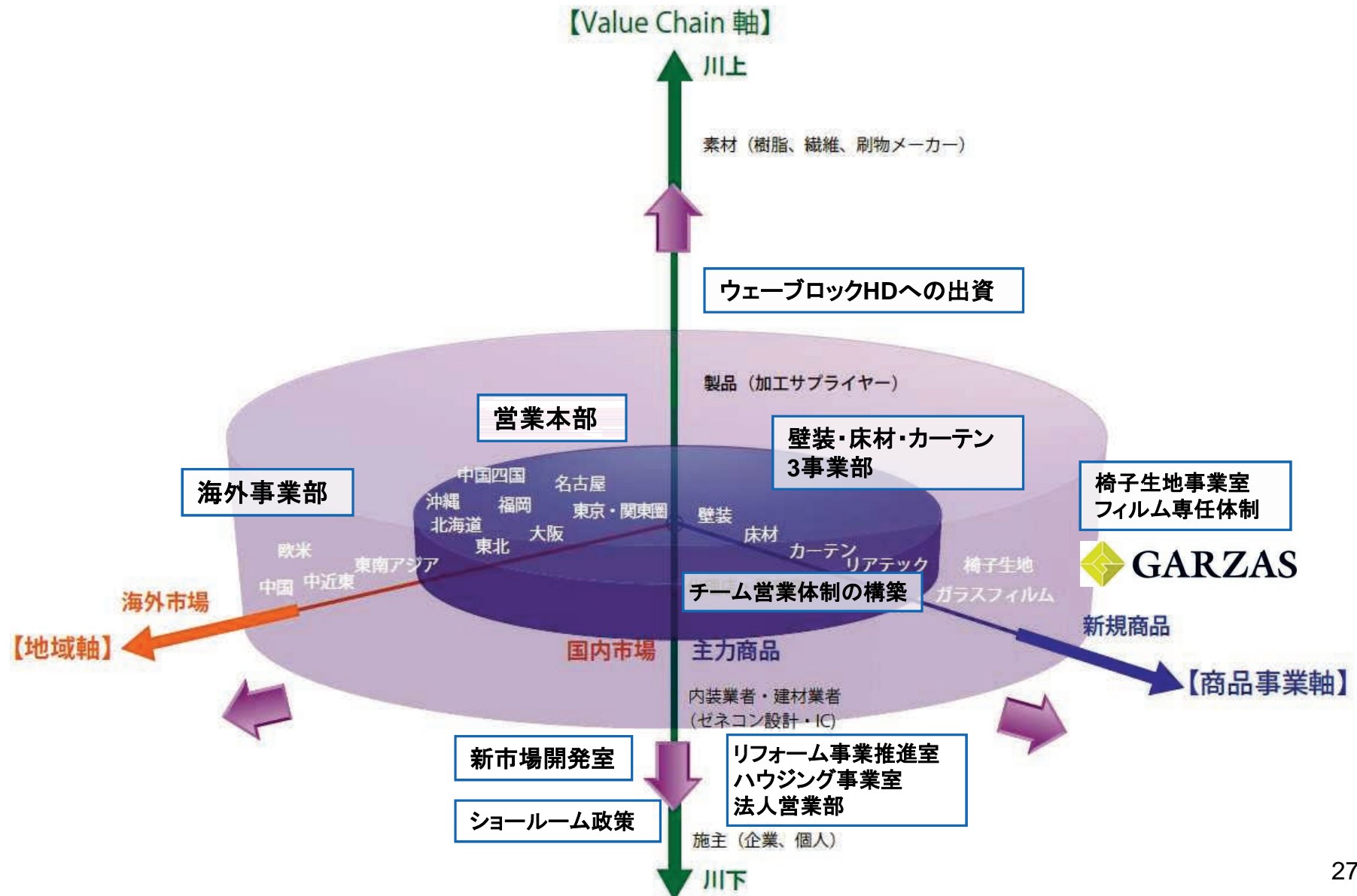
2015年度グッドデザイン賞受賞

株式会社サンゲツの壁紙シリーズ「室礼(しつらひ)/SHITSURAHU」(※)と、
床材カーペットタイル「process#100シリーズ」“SUMI”が“2015年度
グッドデザイン賞”を受賞しました。

わが社はこれからも、商品力を強化し、ブランド力価値向上に努めます。



● 拡張戦略・成長戦略の概略図



1. 山田照明株式会社

- 100%子会社化とデット・エクイティ・スワップの実行
 - ①グループ企業として再建を後押しするため、2015年3月に100%子会社化
 - ②信用力向上と事業計画推進を支援するため、デット・エクイティ・スワップ[債務の株式化]を2015年5月に実行(貸付金10億7千万を現物出資)
- 物流設備・ショールーム整備、新組織体制

2. 株式会社サングリーン

- 新経営体制
- 人事制度見直し・拠点再整備

中期経営計画(2014-2016)Next Stage Plan Gに基づく資本政策(2014年11月7日発表)

基本方針

- 資本コストを上回る ROE の早期実現と、中長期的にはより高い ROE 水準(8~10%)の達成を目指す。
- 安全性と成長の為の資金は確保しつつ、運転資金等の効率化を実現し、資本効率の向上を計る。
- 中長期的に持続可能な株主還元策の拡充を行う。

本中計における 資本政策

- 2014年度より2016年度迄の3年間の連結総還元性向を平均100%以上とする。
- 今後の市場環境を鑑みつつ、2014度下期より最短3年間、最長5年間で自己資本金額を2014年3月末比100億円~200億円の圧縮を目指す。
- 中長期的に株主に対するリターンが向上するよう、機動的に自己株式の取得、増配を検討・実行する。

株主還元策の進捗

2014年11月～2015年9月実績と今後の予定



株主還元実績

2015年3月期 ※2015年4月1日に1株につき2株の割合で分割致しましたので、それ以前は分割が行われたと仮定し、株数を表示しております。

取得期間	取得した株式の総数	株式取得額の総額
2015年3月期合計	312.5万株※	47.8億円

	中間配当(12月支払)	期末配当(6月支払)	総配当額
2015年3月期	14.3億円	16.4億円	30.7億円

2016年3月期 第2四半期

	取得期間	取得した株式の総数	株式取得額の総額
①	2015.04.01～2015.04.27	64.3万株	12.1億円
②	2015.06.11～2015.09.16	76.0万株	15.0億円
合 計		140.4万株	27.1億円

	中間配当(12月支払)
2016年3月期	16.1億円

総還元額	43.3億円
連結総還元性向	134.1%

2014.11～2015.9総還元額	121.9億円
--------------------	---------

2016年3月期下期以降の予定

取得期間	取得する株式の総数	取得する株式の総額
2015.11.10～2016.04.28	250.0万株(上限)	60.0億円(上限)

	期末配当(2016年6月支払)
2016年3月期(予想)	16.1億円

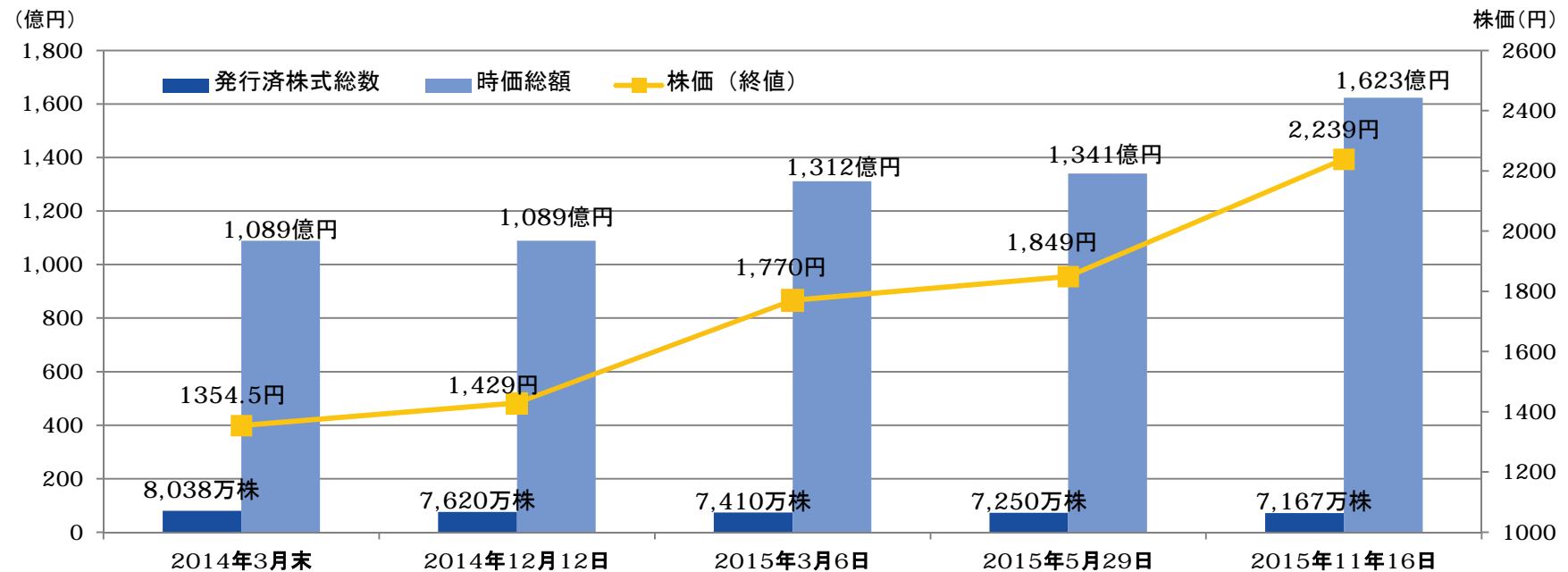
●株主還元策の進捗 2015年度の実績

株主資本/自己資本の削減結果

	株主資本	自己資本	
2014年3月末時点	1,186億円	1,198億円	
2015年3月末時点	1,150億円(▲36億円)	1,187億円(▲11億円)	(2014年3月末比)
2015年9月末時点	1,139億円(▲47億円)	1,172億円(▲26億円)	(2014年3月末比)

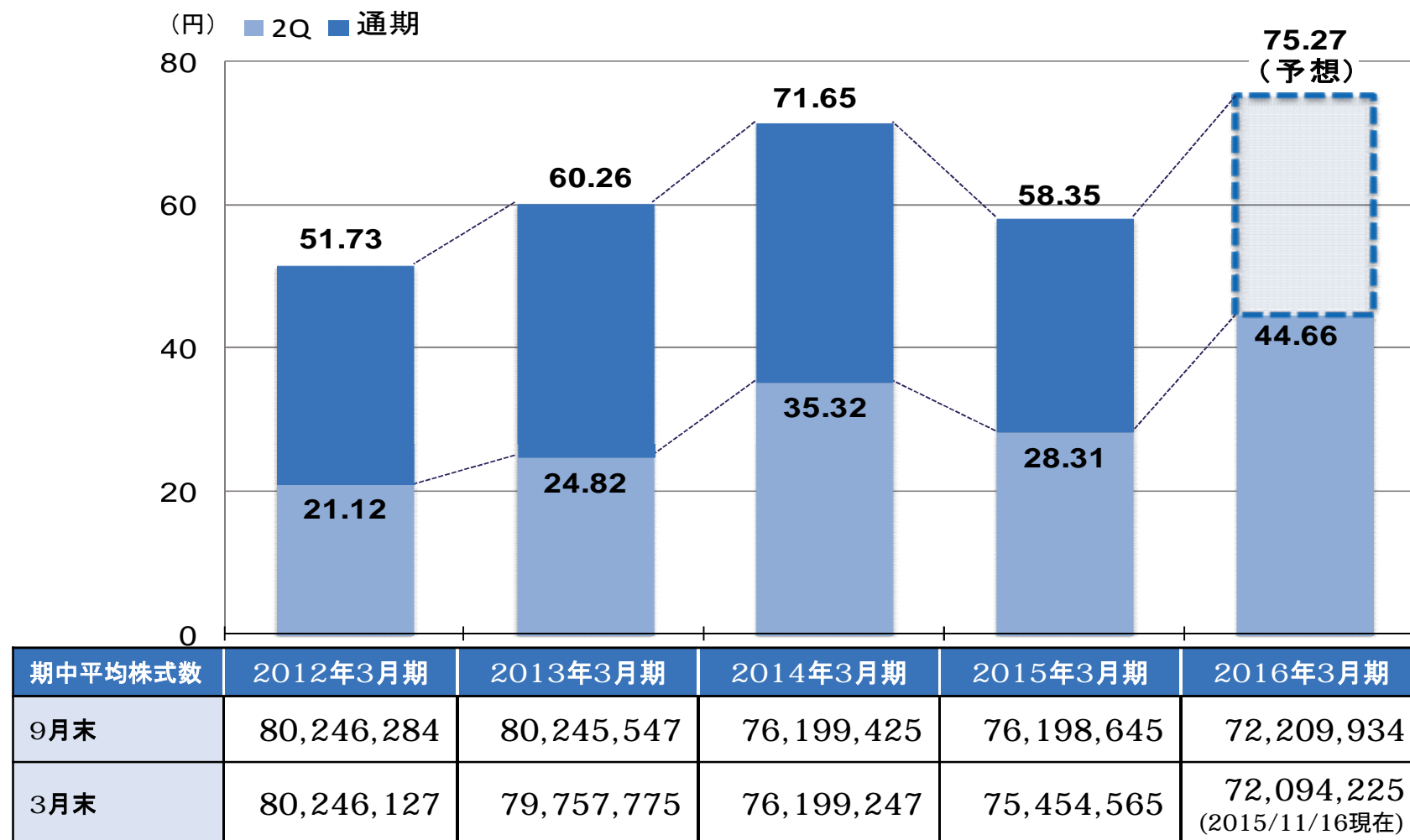
発行済株式総数（含自社保有株）推移 ※2015年4月1日株式分割後ベース

2014年3月末	2014年12月12日	2015年3月6日	2015年5月29日	2015年11月16日
8,038万株	7,620万株	7,410万株	7,250万株	7,167万株



※当社は、2015年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
それ以前は当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式総数、株価を表示しております。

●EPS（連結）の推移



※期中平均株式数は、普通株式の期中平均発行済株式数から期中平均自己株式数を控除して算定しております。

※当社は、2015年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

それ以前は当該株式分割が行われたと仮定して、EPS・期中平均株式数を算定しております。

●新人事制度

能力等級と役職のハイブリッド型人事制度
昇格の早期化・確実化

●新給与制度

役職・能力の高い社員の報酬拡大

●新退職給付制度

従来の確定給付に加え、確定拠出年金制度を導入

●**関東エリア：久喜センター**

【稼働開始】 2016年8月予定
【延べ床面積】 約9,000 坪



●**中部エリア：中部ロジスティクスセンターⅡ**

【稼働開始】 2017年1月予定
【延べ床面積】 約7,400 坪



●**首都圏エリア：平和島センター**

【稼働開始】 2018年1月予定
【延べ床面積】 約6,700 坪



東京品川旗艦ショールーム 2015年7月30日オープン



●ショールーム来場者推移

	来場者数		
	2014年度	2015年度	前年比
8月	7,419	9,130	123%
9月	8,713	9,624	110%
10月	8,696	10,114	116%

中期経営計画 Next Stage Plan G 進捗



			2014年度	2015年度	2016年度	2017年度以降
社員が経営を担う事業基盤の整備	ガバナンス体制の強化	監査等委員会設置会社への移行		★	●	
		役員の報酬制度改革		★	●	
		役員の定年制			●	
	社員の意識改革	有償ストックオプション 発行		★	●	
		事業施設設備の再整備	●	----->		
	組織改革	新組織体制（本社機能強化など）	●			
	人事制度改革	新人事・給与制度	★		●	
		昇格の早期化、拡大		●		
	組織運営ルールの見直し	組織目標の明確化		●		
		予算制度の再整備		●		
権限規定の見直し		●				
リスク管理強化		●				
I Tシステムの再構築	新基幹システム導入			★	●(予定)	
	セールスフォース導入	★	●			
事業戦略の再構築	リブランディング	ロゴなどCIデザインをはじめとしたブランド全体見直し	----->★			
	営業戦略の見直し	法人営業部、海外事業部の新設	●			
		リフォーム事業推進室、新市場開発室の新設		●		
		専門・特化した営業力強化（椅子生地事業室、フィルム担当新設）		●		
		施主、設計営業強化（ハウジング事業室新設）		●		
	商品開発・見本帳政策の見直し	壁装、床材、カーテンの事業部制導入	●			
		新ブランド「process#100」発表			●	
		カーテンの新ブランド見本帳「AC」発刊			●	
		グッドデザイン賞受賞（壁紙、床材）			●	
	仕入先とのアライアンス強化	ウェーブブロックHDの株式取得、持分法適用会社化			●	
		発表 ★ 実行 ●				

発表



実行



中期経営計画 Next Stage Plan G 進捗



			2014年度			2015年度			2016年度			2017年度以降		
事業戦略の再構築	物流拠点整備（全体最適の物流体制の構築）	既存物流センターの統廃合				★								→
		久喜センター新設				★			●					
		中部ロジスティクスセンターⅡ新設				★				●				
		平和島センター新設				★							●	
	ショールーム戦略	東京品川ショールームオープン				★	●							
		リフォーム需要向け地方型ショールームの設置の検討				★								
	新規事業戦略	新規事業部新設		●										
		大型のセラミック板「GARZAS」発売				★	●							
ステークホルダーの評価向上	I R活動の強化	資本政策発表		★										→
		自己株式取得		★	★	★	★							
		I R活動開始		●										→
		統合報告書発刊					●							
	C S R活動の強化	児童福祉施設の改装支援			●									→
創業以来の理念・社会貢献の継承	回想録発刊	創業家前会長、前専務の回想録を発刊					●							
	インテリア歴史資料館開設	創設以来の会社のあゆみや日本のインテリアの歴史を振り返る資料館の開設準備												

発表 ★ 実行 ●

本資料には当社の「将来に関する記述に該当する情報」が記載されています。本資料における記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来予測に関する記述に該当します。

これら将来予測に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しており、それらの要因による影響を受ける恐れがあります。